

ウラジロモミ *Abies homolepis* Sieb. et Zucc.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。温帯性の樹木で、自然林の構成樹種である。愛知県では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

常緑性の高木。幹は高さ 30～40m、直径約 1m になる。樹皮は灰色～灰褐色、鱗片状にはがれる。若枝は黄褐色で毛がない。葉は線形でやや扁平、長さ 10～25mm、幅 2～3mm、先端は鈍形～凹形、表面は濃緑色、裏面には 2 条の白色で幅広い気孔帯がある。花期は 5～6 月、雄花は楕円形で長さ 1～3cm、黄褐色、雌花は長円柱形で長さ 5～6mm、紫赤色である。毬果はその年の秋に熟し、直立して長楕円状円柱形、長さ 7～12cm、直径 3～4cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（村松正雄 24419, 2008-8-15）、4 津具（芹沢 86546, 2010-10-23）。愛知県では、茶臼山周辺の限られた範囲に生育しているだけである。

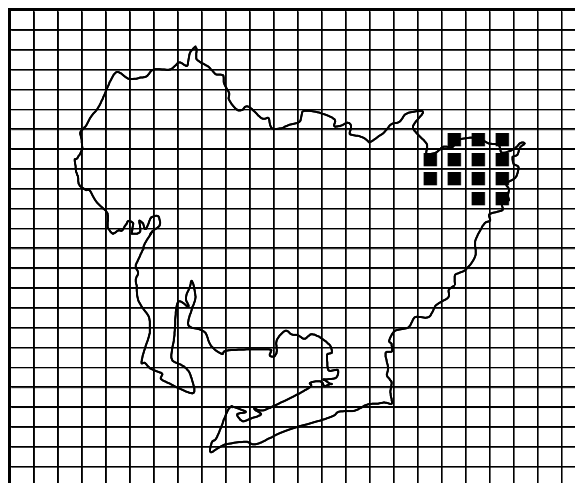
【国内の分布】

本州の太平洋側（東北地方南部～紀伊半島）および四国。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

標高 1,000～2,000m の山地に、ふつうは落葉広葉樹と混交林を作って生育する。一般に、モミよりは標高が高く、シラベよりは標高の低いところに見られる。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育範囲は狭く、高木であるだけに成木の個体数も少ない。現地の自然林は、過去の牧場開発、観光開発、拡大造林などによって狭められ、現在は急傾斜地などに残存するだけである。

【保全上の留意点】

自然林は愛知県では僅かに残存するだけであり、現在残っている林は厳重に保全する必要がある。また、茶臼山周辺は、愛知県の中では希少な温帯性植物が、集中して生育している場所である。自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、これ以上の開発を避けるべきである。

【特記事項】

若枝に毛がないことが特徴で、この点でモミやシラベから区別できる。

【関連文献】

保木 II p.442, 平木 I p.9, 平新版 1 p.29.